

No. 518
2014年
9月

OR学会だより

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F
電話 (03)3851-6100 Fax (03)3851-6055
<http://www.orsj.or.jp/>

● 第5回「近藤賞」候補者ご推薦のお願い

「近藤賞」は、2007年日本OR学会創立50周年事業の一環として創設されたものであり、ORの研究、普及または教育に傑出した業績を挙げた個人（またはグループ）を表彰し、わが国のORの発展に資するとともに、広くこの分野の社会における認知度を高めることを目的としています。

このたび、下記の要領で第5回「近藤賞」受賞候補者を募集いたしますので、ご推薦くださいますようお願いいたします。

推薦方法：日本OR学会個人正会員および名誉会員による推薦

提出書類：推薦理由書、被推薦者の略歴および主要業績一覧表（書式自由）

推薦対象者：ORの研究、普及、または教育のいずれかの分野で傑出した業績を挙げた日本人、または日本を主たる活動の場とする人（グループも可）

推薦締切：2014年9月30日

推薦書送付先：日本OR学会事務局

E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp

*受賞者は近藤賞選考委員会において決定し、2015年春季研究発表会で表彰を行い、受賞記念講演をしていただく予定です。

なお、「近藤賞」は2年に1回程度の頻度で募集を行う予定です。

詳しくは学会WEB

<http://www.orsj.or.jp/whatisor/award10.html> をご覧ください。

(表彰委員会)

● 日本OR学会各賞の候補者ご推薦のお願い

本学会では、研究賞、研究賞奨励賞、事例研究賞、業績賞、実施賞、普及賞、論文賞、学生論文賞を設定し、それぞれの分野で顕著な成果・業績を挙げられた個人や企業を毎年表彰しております。つきましては、今年度も受賞候補者の積極的なご推薦を募ります。

推薦締切日は以下のとおりです。

1. 業績賞、普及賞、実施賞：2014年11月30日

2. 研究賞、研究賞奨励賞、事例研究賞：

2015年1月31日

3. 学生論文賞：2015年3月31日

推薦状は、ホームページ (<http://www.orsj.or.jp/whatisor/award7.html>) からダウンロードしてご利用ください。

過去の受賞者一覧は<http://www.orsj.or.jp/whatisor/award.html>に記載しています。

【研究賞】 昭和43年（1968年）に創設された大西記念文献賞、およびそれを継承した文献賞を受け継ぎ、2011年度から設けられた本学会で最も歴史のある賞です。次の条件を満たす個人に贈られます。

1. 本学会員であること。
2. 独創性と将来性に富み、ORの発展に寄与する研究業績を挙げていること。

授賞対象とする研究業績は過去5年以内のものとし、毎年1名程度を表彰する予定です。

【研究賞奨励賞】 若手研究者個人を対象とする賞です。上の研究賞の条件に加えて被推薦者の年齢に関して次の条件があります。

被推薦者は、原則として応募締め切り時に満35歳以下であること。ただし、OR研究歴が短い方は、この年齢制限を超えていても構いません。

授賞対象とする研究業績は過去3年以内のものとし、毎年3名程度を表彰する予定です。

【事例研究賞】 ORの優れた事例研究に対して贈られます。毎年3件程度を表彰する予定です。個人の場合は本学会員、グループの場合は本学会員を含むグループ、企業の場合は賛助会員企業が対象です。

【業績賞】 ORの研究・教育・実施などにかかわる活動に顕著な業績を挙げた個人に対して贈られます。

ただし被推薦者は、原則として満40歳以上、満60歳以下の学会員であることが必要です。毎年1名程度を表彰する予定です。

【実施賞】 ORの強力な実施・推進に対して贈られます。毎年1件程度を表彰する予定です。

【普及賞】 ORの普及に大きな貢献に対して贈られます。毎年1件程度を表彰する予定です。

*〔実施賞〕〔普及賞〕は、個人の場合は本学会員、

グループの場合は本学会員を含むグループ、企業の場合は賛助会員企業が対象です。

〔論文賞〕 2010年度より設けられた新しい賞です。過去1年間に本学会論文誌に掲載された論文のうち、特に優れたもの1編に贈られます。授賞論文の著者すべて（非会員が含まれる場合も全員）を表彰します。なお、論文賞の推薦は募りません。

〔学生論文賞〕 学生によるORに関する優れた研究に対して贈られるものです。対象は、来春提出される学部の卒業論文、または大学院の修士論文とします。毎年5編程度を表彰する予定です。学生・指導教員がともに本学会員であることが必要です。詳しい募集要項は、OR誌2月号に掲載します。

(表彰委員会)

● 2015年春季シンポジウム (第73回)

日 程: 2015年3月25日(水)
場 所: 東京理科大学 神楽坂キャンパス
実行委員長: 生田目 崇 (中央大学)

● 2015年春季研究発表会

日 程: 2015年3月26日(木)、27日(金)
場 所: 東京理科大学 神楽坂キャンパス
実行委員長: 矢部 博 (東京理科大学)
特別テーマ: 「グローバル社会とOR」

● 第11回中部支部シンポジウム

「今なら解ける！問題解決のための最適化技術」

主 催: OR学会中部支部
<http://www.orsj.or.jp/chubu/>
日 時: 2014年9月27日(土) 13:30~17:30
場 所: ウィンクあいち15階 (愛知県立大学サテライトキャンパス)
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38
<http://www.winc-aichi.jp/access/>

プログラム:

- (1) 「はじめよう整数計画」
宮代隆平 (東京農工大学)
- (2) 「大規模な組合せ最適化問題に対する発見的解法」
梅谷俊治 (大阪大学)
- (3) 「Memetic Algorithmを用いた Vehicle Routing Problemの効率的近似解法」
永田裕一 (徳島大学)
- (4) 「企業における最適化技術の適用事例 (仮)」

江崎洋一 (キヤノンITソリューションズ)

参加費: 一般1,000円 (当日払), 学生 無料
事前申込: <http://www.orsj.or.jp/chubu/?p=2273>
締 切: 9月13日(土)

シンポジウムは当日参加も可能ですが、準備の都合上、できるだけ事前申込みにご協力ください。懇親会も予定しています。懇親会に参加される方は、必ず、事前申込みをお願いします。

問合せ先: 中部支部研究幹事 (名古屋大学 橋本英樹)
 E-mail: chubu-symposium@al.cm.is.nagoya-u.ac.jp

● 研究部会・グループ開催案内

〔意思決定法〕

・第30回

日 時: 2014年9月9日(火) 14:00~17:00

*研究会終了後、三宮近辺で懇親会を行います。

場 所: 兵庫県立大学神戸情報科学キャンパス
 (〒650-0047 神戸市中央区港島南町7-1-28 (計算科学センタービル内))

<http://www.u-hyogo.ac.jp/campuslife/access/campus06.html>

テーマと講師:

- (1) 「グループの区間ウェイトと個人の区間ウェイトの関係について」
日谷友英 (兵庫県立大学)

グループのメンバからそれぞれに与えられた一対比較行列をもとに、メンバ個人の考えとグループとしての考えの2種類を同時に導くにあたって、両者の関係性に着目して、個人の納得性やグループの考えとしての有用性などからいくつかのパターンに分けて考えていく。

- (2) 「データ生成法を導入したpdi-Boostingの効率化とその応用」

林 勲 (関西大学), 鶴背慎二 (パナソニックシステムソリューションズジャパン)

本発表では、脳信号によるBCIのパターン認識のためのアンサンブル学習法であるpdi-Boostingを概説する。本手法は、誤識別データ付近に補間データを発生させ、多数決原理と評価式で識別率を向上させる。ここでは、本手法の定式化とその有用性について議論する。

- (3) 「あいまい性を含む意思決定結果の纏め方に関する一考察」

井上敦司 (Eastern Washington University, USA)

各々の意思決定結果があいまい性を含む場合の集団意思決定で、これら結果をどう纏め (集計する) のか

についての考察を紹介する。あいまい性を選択の確率と見なし、それを点、区間、言語（例：大、中、小）と拡張することで、種々のあいまい性に対応可能だと考える。今回はその有用性について、ネット監視への応用を中心に議論する。

(4) 「AHPにおける一対比較値行列の整合性評価と調整」

田中浩光（愛知学院大学）

AHPの成否は、一対比較値行列の要素からなる評点集合に影響を受ける。評点は、値の上限と離散化などAHP方式が抱える縛りのもとで生成される。本報告では、評点値の上限と離散化に着目して、一対比較値行列（ 4×4 ）の整合性について調べる。その際、小行列（ 3×3 ）が（準）完全整合である場合を取り上げて、一対比較値行列（ 4×4 ）の整合性に及ぼす影響を探る。とくに、完全整合である小行列を活用する調整方式を示す。整合性指標として、サーティのC.I.を用いる。

問合せ先：田地宏一（名古屋大学）

E-mail: taji@nuem.nagoya-u.ac.jp

〔サービス・イノベーションへの数理的アプローチ〕

・第7回

日時：2014年9月12日（金）13:30～16:30

場所：テクノスジャパン(株)会議室（新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー32階）

テーマと講師：

- (1) 「予測で勝つ—リクルートにおけるデータ活用事例紹介—」
青柳憲治（(株)リクルートテクノロジーズ、筑波大学大学院）
- (2) 「対話型クラスター分析による機器故障推定ロジックの開発」
高木大輝（大阪ガス(株)情報通信部ビジネスアナリスセンター）
- (3) 「タクシーサービス向上のためのOR手法の適用可能性」
繁野麻衣子（筑波大学システム情報系社会工学域）

問合せ先：筑波大学システム情報系 高木英明

Tel: 029-853-5414

E-mail: takagi@sk.tsukuba.ac.jp

参加費無料・事前申込は不要です。

〔評価のOR〕

・第61回

日時：2014年9月27日（土）13:30～16:30

場所：日本規格協会関西支部（〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-2-7 ORIX高麗橋ビル7F）

http://www.jsa.or.jp/aboutus/guide_map.asp?fn=a1_map5.htm

テーマと講師：

- (1) 「チーム活動における個と全体の目標設定と評価」
円谷友英（兵庫県立大学）

チーム活動の成功と失敗を分ける要素として、戦略の良し悪しとともにメンバーの納得性が肝要である。そのためには、メンバー全員で意思決定し実行すると同時に個人の目標にも配慮する必要がある。これはチームの目標と完全に一致なくてもよいが、全く相いれないものであってはチーム活動に支障が生じる。こういったことを踏まえた個と全体の目標設定の過程をモデル化することを試みる。

- (2) 「Least-distance projection to the Pareto-Koopmans efficient frontier in DEA」
福山博文（福岡大学）

In this presentation, we report the least-distance inefficiency model proposed by a recent study of Fukuyama, Maeda, Sekitani, and Shi (Eur. J. of Oper. Res., Vol. 237, No. 3, pp.997-1007, 2014). Then we discuss the axiomatic properties of the model and their implications by making comparison with the models presented by several other related studies.

問合せ先：関谷和之（静岡大学）

E-mail: sekitani@sys.eng.shizuoka.ac.jp

部会 URL：<http://www-sys.ist.osaka-u.ac.jp/hyoka/>

2014年度 第2回 ORセミナー『技術者のためのゲーム理論の基礎』

開催趣旨: 経済学を中心に社会科学において大きく発展したゲーム理論であるが、近年は理系のエンジニアや情報系の技術者にゲーム理論を学んでみたいとする者が増えている。本セミナーでは、そのような企業人を対象にゲーム理論の基礎を講義する。ゲーム理論の基礎的なチュートリアル、ビジネスにおけるゲーム理論的考え方、工学的なゲーム理論の応用例としてのマッチングとオークションの基礎的なセミナーを行う。

日時: 2014年12月6日(土) 10:00~17:00

会場: (株)構造計画研究所本所新館(地下1階レクチャールーム)

〒164-0011 中野区中央4-5-3 Tel. 03(5342)1065

東京メトロ丸の内線「新中野」駅1,2番出口徒歩約1分 <http://www.kke.co.jp/corporate/map/tokyo2.html>

コーディネーター: 榎尾 博(東京ガス(株)) E-mail: kashio@tokyo-gas.co.jp

プログラム: (敬称略)

10:00~10:10 **開会挨拶 (セミナーの概要)** 渡辺隆裕(首都大学東京経営学専攻)

10:10~12:00 **「初歩から学ぶゲーム理論」** 渡辺隆裕(首都大学東京経営学専攻)

ゲーム理論の基礎を学ぶ。ゲーム理論とは何か、戦略形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡、社会最適(パレート最適)と個別最適(ナッシュ均衡)とのずれ、2×2ゲーム、展開形ゲーム、バックワードインダクションについて学ぶ。(内容を若干変更することがあります)

13:00~14:15 **「ビジネスとゲーム理論」** 松林伸生(慶應義塾大学理工学部管理工学科)

ゲーム理論をビジネスで応用する場合に重要な点、経営戦略とゲーム理論、最適化との違いについて述べ、マーケティング、ITビジネス、サプライチェーンなどに関する意思決定の際にゲーム理論が与える示唆についても可能な範囲で触れる。(内容を若干変更することがあります)

14:25~15:25 **「マッチングとその応用」** 岩崎 敦(電気通信大学大学院情報システム学研究科)

ゲーム理論が実際に使われている工学的応用の1つとして、児童がどの学校に通うかを選択する学校選択制や研修医がどの病院で研修を受けるかを定める研修医配属におけるマッチングのメカニズム(ルール/制度)をどう設計するかという問題がある。本セミナーでは、マッチングの例を中心にメカニズムデザイン(制度設計)の考え方や安定性や耐戦略性などの概念を解説する。(内容を若干変更することがあります)

15:40~16:40 **「オークションのデザイン」** 福田恵美子(防衛大学校情報工学科)

ゲーム理論によってオークション制度を分析した研究を紹介する。セカンドプライスオークションや耐戦略性について解説した後、応用例として検索サイトで用いられている広告オークションの仕組みを説明する。さらに、二つのオークション制度を実験により比較した結果を紹介する。(内容を若干変更することがあります)

16:40~17:00 **まとめ** 渡辺隆裕(首都大学東京経営学専攻)

参加費(テキスト代込み): 正・賛助会員(協賛学会員を含む)5,000円、学生会員1,000円、学生(非会員)1,500円、非会員20,000円

*セミナーに参加した非会員は、入会金無料で入会でき、2014、2015年度の年会費は免除されます。

申込方法: 日本OR学会事務局 E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp

お名前、ご所属先、正会員/学生会員/賛助会員/協賛学会員/非会員、お支払予定日を記入してメールにてお申込みください。会社宛請求書が必要な場合、その旨お書きください。

申込締切: 2014年11月28日(金)

お振込先: みずほ銀行: 根津支店(店番号235) 普通1530801

口座名: 公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会

協賛学会: 日本経営工学会(JIMA)、日本品質管理学会(JSQC)、日本信頼性学会(REAJ)、研究・技術計画学会(JSSPRM)、日本設備管理学会(SOPE-J)、プロジェクトマネジメント学会(SPM)

*詳しくは、OR学会WEB <http://www.orsj.or.jp/activity/seminar.html> をご参照ください。

第26回RAMPシンポジウム

日 程：2014年10月16日(木)，17日(金)

会 場：法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー26階スカイホール

実行委員長：野々部宏司（法政大学）

プログラム委員長：柳浦陸憲（名古屋大学）

プログラム：

10月16日(木)

10:00~13:00「土木計画学における最適化」

オーガナイザー：林 俊介（東北大学）

- ・貝戸清之（大阪大学），「インフラ管理の最適化：アセットメトリクスに向けて」
- ・高山雄貴（愛媛大学），「非凸な空間経済における安定均衡状態の特性分析：都市集積モデルにおけるランクサイズルールの創発」
- ・赤松 隆（東北大学），和田健太郎（東京大学），「動的な交通ネットワーク流の制御」

14:30~17:30「エネルギー利用最適化への挑戦」

オーガナイザー：佐々木美裕（南山大学）

- ・児山篤紘（関西電力株式会社），「再生可能エネルギー大量導入に向けた関西電力の取り組み」
- ・高嶋隆太（東京理科大学），「不確実性下における電源リプレースの経済性評価」
- ・田中 誠（政策研究大学院大学），「再生可能エネルギーの政策分析—RPS制度と均衡制約をもつ数理計画問題—」
- ・横山良平（大阪府立大学），「分散型エネルギーシステムの最適設計—設計と運用の階層的関係を考慮したアプローチを中心として—」

18:00~（予定）懇親会

10月17日(金)

9:30~12:30「世界をリードする計算機科学の巨大プロジェクト」

オーガナイザー：加藤直樹（京都大学）

- ・岡田真人（東京大学），「機械学習の三つのレベルとデータ駆動型科学」
- ・湊 真一（北海道大学），「ERATO湊離散構造処理系プロジェクトの主な研究成果と近況について」
- ・渡辺 治（東京工業大学），「計算限界への挑戦：P=NPの世界を目指して」
- ・河原林健一（国立情報学研究所），「巨大グラフ：理論解析と高速アルゴリズム」

14:00~17:00「整数計画」

オーガナイザー：品野勇治（Zuse Institute Berlin）

- ・Martin Grötschel (Zuse Institute Berlin, Technical University Berlin, MATHEON Berlin), "Future perspectives of optimization: My view"
- ・Matteo Fischetti*, Michele Monaci (University of Padova), "Proximity search heuristics for Mixed Integer Programs"
- ・Andrea Lodi (University of Bologna), "Solving Mixed-Integer Quadratic Problems with IBM-Cplex: a progress report"
- ・Tobias Achterberg (Gurobi Optimization Inc.), "Presolving in Mixed Integer Programming"

シンポジウムホームページ：http://www.orsj.or.jp/ramp/2014/

● 新宿 OR 研究会案内

〔第341回 新宿 OR 研究会〕

日 時：2014年9月16日(火) 12:00～14:00
 場 所：東天紅会議室(新宿センタービル53F)
 講 師：鵜飼孝盛氏(中央大学)
 テーマ：「病床自動割当システムの作成」

〔第342回 新宿 OR 研究会〕

日 時：2014年10月21日(火) 12:00～14:00
 場 所：東天紅会議室(新宿センタービル53F)
 講 師：中森眞理雄氏(東京農工大学名誉教授)
 テーマ：「電子基板生産におけるOR」
 参加費：3,000円(昼食代を含みます。事前にメールにてお申し込みください。)
 問合せ先：日本OR学会事務局
 E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp

● 助成案内

・鹿島学術振興財団2014年度研究助成

対象研究者：

- (1) 都市・居住環境の整備
 - (2) 国土・資源の有効利用
 - (3) 文化的遺産・自然環境の保全
- 以上の分野での研究者または研究グループ

助成金額と期間：

- (1) 1件あたりの助成金は、継続期間(2年目)の分も含めて合計300万円以内とする。
- (2) 助成期間は2年間まで。

使 途：研究に必要な設備品費、消耗品費、謝金、旅費、印刷製本費等

* 詳しくは、<http://www.kajima-f.or.jp/obo/index.html> をご覧ください。

推薦者：OR学会会長

OR学会推薦締切：2014年10月10日

申請書提出先及び問合せ先：

OR学会事務局
 E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp

● 公募案内

(詳細は、各大学のWEBおよび、OR学会WEBの「教員公募案内」をご覧ください。)

・公立大学法人秋田県立大学

募集人員：教授または准教授1名

所 属：システム科学技術学部経営システム工学科プロセス管理グループ

専門分野：経営工学及び関連分野

担当授業科目：

(学部) 人間工学, 生産マネジメント, 経営工学実験, セミナー, 卒業論文指導等
 (大学院) 生産管理特論, セミナー, 修士, 博士論文指導等

応募資格：

- (1) 博士の学位を有し研究上の業績を有すること、またはそれと同等の能力を有すること
- (2) 当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること
- (3) 国籍は問わないが、日本語が堪能であること
- (4) 採用が決定した場合、確実に着任できること

採用予定日：平成27年1月1日以降のできるだけ早い時期

勤務条件等：(1) 身分：公立大学法人職員、(2) 給与：職位・業績・職務内容に応じた年俸制、(3) 勤務裁量労働制、(4) 任期：5年の任期制、(5) 定年：67歳

応募書類：(1) 履歴書、(2) 研究業績書①学術論文(査読付き)、②国際会議発表論文(査読付き)、③その他、(3) 主要論文、(4) これまでの研究、教育及び社会活動(地域貢献を含む。)の概要(1,000字程度)、(5) 教育に対する抱負(1,000字程度)、(6) 研究・地域貢献に対する抱負(1,000字程度)、(7) 応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先、(8) 科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧

応募締切：平成26年9月30日(火) 必着

選考方法：(1) 第一次選考提出書類審査、学部選考委員会による面接、(2) 第二次選考プレゼンテーション、役員による面接

書類提出先：〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 秋田県立大学システム科学技術学部本荘キャンパス教員選考委員長 松本真一

問合せ先：秋田県立大学システム科学技術学部経営システム工学科 長谷内宏行

TEL: 0184-27-2148 (ダイヤルイン)

E-mail: taniuchi@akita-pu.ac.jp

※封筒の表に「経営システム工学科教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。

URL : <http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/saiyo.htm>

その他：秋田県立大学は、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、男女共同参画を推進しています。有為の女性の積極的な応募を期待します。

● 他学協会協賛案内

他学会等が主催する大会やシンポジウムで当学会が協賛しているものについては、主催学会の会員と同じ費用で参加できる場合があります。詳しくは、各学会にお問合せください。

・日本信頼性学会2014年度第1回フォーラム

日 程：2014年9月9日(火) 13:25~17:30

場 所：一般財団法人日本科学技術連盟 千駄ヶ谷ビル
(東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11)

主 催：日本信頼性学会

協賛学会参加費：会員の参加費が適用されます。

問合せ先：日本信頼性学会事務局

E-mail: reaj@juse.or.jp

WEB : <http://www.reaj.jp/modules/eguide/event.php?eid=45>

・スケジュールリング・シンポジウム2014

日 程：2014年9月29日(月)~9月30日(火)

場 所：富山国際会議場

主 催：スケジュールリング学会

協賛学会参加費：会員の参加費が適用されます。

WEB : <http://www.scheduling.jp/symposium/2014/>

・システム・情報部門 学術講演会2014 (SSI2014)

日 程：2014年11月21日(金)~11月23日(日)

場 所：岡山大学創立五十周年記念館

主 催：公益社団法人計測自動制御学会システム・情報部門

協賛学会参加費：会員の参加費が適用されます。

WEB : <http://www.sice.or.jp/SSI2014/info.html>

・第5回横幹連合総合シンポジウム

日 程：2014年11月29日(土)~11月30日(土)

場 所：東京大学本郷キャンパス

主 催：横幹連合(特定非営利活動法人横断型基幹科

学技術研究団体連合)

テーマ：「日本発：モノ・コト・文化の新結合」

WEB : http://www.trafst.jp/sympo2014/index_sympo2014.html

● 新入会員 (2014年7月理事会承認分)

一正会員一

武市 昇 名古屋大学〔中部支部〕

Tiffany Li

石田 崇 高崎経済大学

石井 政行

榎谷 啓介 〔関西支部〕

渡辺 扇之介 同志社大学〔関西支部〕

一学生会員一

山田 紗希 徳島大学大学院〔中四国支部〕

福田 俊 東北大学大学院〔東北支部〕

北島 良三 東海大学

田中 真 防衛大学校

今井 智大 東京農工大学

東尾 剛丈 防衛大学校

呂 楊 政策研究大学院大学

荒田 航 防衛大学校

小林 健 東京工業大学

丸山 達也 長岡技術科学大学〔東北支部〕

柿本 陽平 長岡技術科学大学〔東北支部〕

伊藤 伸志 東京大学

望月 あゆみ 明治大学大学院

田中 秀明 愛知県立大学〔中部支部〕

池畑 裕亮 明治大学大学院

横山 想一郎 北海道大学〔北海道支部〕

榎 洋史 防衛大学校

北村 昌士 東京大学

田村 康将 北海道大学大学院〔北海道支部〕

南出 将仁 静岡大学院〔中部支部〕

山根 裕貴 大阪府立大学〔関西支部〕

北森 拓也 静岡大学〔中部支部〕

平野 菜月 大阪府立大学〔関西支部〕

川岸 卓司 筑波大学

松井 和也 南山大学〔中部支部〕

*支部表記のない方は本部所属です。

2014年度年会費納入のお願い

2014年度年会費の請求書を11月に発送いたしました。納入期限は2013年12月末までとなっておりますので、お早めにご入金くださいますようお願いいたします。

大学または、会社宛の請求書が必要な場合は、以下をメールにて事務局にお知らせください（会員氏名、請求金額、請求書宛名（個人名／法人名／法人名+個人名）請求書の日付指定の有無、様式の指定…請求書／見積書／納品書、指定用紙など）。

***OR学会の事業年度は3月～翌年2月までです。**

学生会員年会費無料化キャンペーン

- ① 学生で、かつ指導教員が正会員の方は、2013・2014年度の学生会員年会費5,000円は無料となります。新入会の場合は、WEBより入会申込みの手続きをし、入会金600円を振り込んでください。（入会金のお支払いをもって、入会手続き完了となります。）
- ② 学生の方は指導教員様に事務局へのメール送付を依頼してください。指導教員様のメール受領をもって、無料化受付が完了します。メールには「教員様のお名前、ご所属、学生の方のお名前、ご所属先、メールアドレス」を明記してください。
- ③ ただし、指導教員様が非会員の場合は、「学生会員年会費無料化キャンペーン対象外」となり、通常の年会費5,000円が必要となりますので、ご注意ください。
- ④ 当該学生が卒業、就職などにて年度末（3月）退会の場合はお手数ですが、指導教員様より事務局にご連絡ください。

シニア会員について

正会員のうち、20年以上正会員を継続し、会費を完納している60歳以上であり、定常収入を有しない方は、理事会の承認によりシニア会員になることができます。申請／承認後、翌年度よりシニア会員となります。シニア会員の会費は7,200円です。

学会事務局までお問合せください。

特別会員について

正会員のうち、身体障害者手帳をお持ちの方は、その手帳の写しを事務局に提示していただくことにより、特別会員として年会費半額の免除制度があります。

メーリングリスト登録のご案内

OR学会ではメーリングリストを開設し、本学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナーなどの催しに関する広報機能としてご利用いただいています。

新規にOR学会のご入会の方、未登録の方は、ご登録くださいますようご案内申し上げます。

アドレス変更の場合、ご自分で新アドレスの参加登録、旧アドレスの脱退手続きが必要です。OR学会会員情報の変更届けとは連動しておりませんので、ご注意ください。

詳しくは、学会WEBのメーリングリスト利用の手引きをご覧ください。

<http://www.orsj.or.jp/members/mlhowto.html>

年会費専用振込み口座

年会費（不課税）：正会員 14,400円、
学生会員 5,000円、
シニア会員 7,200円

口座名：公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会

ゆうちょ銀行：東京00190-6-79492

みずほ銀行：根津支店（店番号235）普通1124744

*手数料は払込人負担でお願いいたします。

*会員番号とお名前は必ずお書きください。

年会費銀行自動引き落とし受付開始

年会費銀行自動引き落としの新規お申込み受付を開始しました。対象は、正会員・シニア会員の2015年度年会費からです。お申込み締切は2014年9月末日。引き落とし日は2015年1月20日（2015年度年会費分です。）

2014年9月末日以降のお申込みの場合は2016年度年会費からの適応となります。

ご希望の方は、事務局までメールでご連絡ください。銀行所定の用紙をお送りいたします。

OR学会事務局

E-mail: jimukyoku@orsj.or.jp
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-13-5
サン・チカビル7F

TEL: 03-3851-6100, FAX: 03-3851-6055

*各種お届けは、メールにてご連絡ください。

（住所／所属先／メールアドレス／OR誌送付先／学生会員→正会員への変更／退会届）

会員氏名と新旧の変更内容をお書きください。